



遠藤 謹助 (えんどう きんすけ)

天保7年(1836)～明治26年(1893)



人物紹介

〈号〉^{しょうらん}松雲

長州ファイブ(長州五傑)のひとりで、近代造幣の父といわれる。

天保7年(1836)、長州藩大組遠藤彦右衛門の次男として生まれる。文久3年(1863)年に伊藤俊輔(博文)らとイギリスに留学、イングランド銀行の紙幣印刷技術を目の当たりにする。慶応2年(1866)、帰国。同年、英国公使代理のキング提督が長州藩主父子(毛利敬親・定弘)と会見した際、井上馨とともに通訳を務める。

明治2年(1869)、大蔵省入省。翌年、井上馨の下で造幣権頭(副局長にあたる)となる。明治7年(1874)、大阪の造幣寮(のちの造幣局)首長のキンドルとの対立により造幣寮を去り、大蔵省大丞^{だいじょう}及び税関局長となる。明治14年(1881)造幣局に復帰、以後約11年間局長を務め、日本人による造幣技術確立を目指した。

明治26年(1893)9月12日病没。享年58歳。

造幣局局長時代の明治16年(1883)、造幣局構内の桜並木を市民に開放する「桜の通り抜け」を始めたことでも知られる。



資料紹介 県立図書館所蔵の遠藤謹助に関する本



生涯を簡単に紹介した本

※「Y280/N7」などは、県立図書館の請求記号

- 『**きらり山口人物伝 Vol.9**』
夢チャレンジ出版事業刊行委員会制作 山口県ひとづくり財団 2016.9 Y280/N7
遠藤の生涯をまとめ、小中学生向けに分かりやすい言葉で紹介している。読みづらい漢字はルビつき。年表あり。
- 『**その後の長州五傑**』松野浩二著 東洋図書出版 2011.9 Y215.8/P1
遠藤ら、幕末にイギリスにわたった5人の留学生の生涯を紹介した本。第4章「造幣の父、遠藤謹助」(p145-168)に人物紹介あり。読みやすい。



長州ファイブについての本

- 『**明治の技術官僚 近代日本をつくった長州五傑**』
柏原宏紀著 中央公論新社 2018.4 Y216/P 8
技術官僚としての長州ファイブの生涯をまとめた新書。第1章「2 留学と帰国の意味」(p37-52)、第3章「2 技術官僚遠藤謹助と造幣寮」(p108-119)、第6章「技術官僚として完結—遠藤謹助—」(p226-237)などに遠藤関連の記述あり。
- 『**長州ファイブ**』 ザメディアジョン 2006.11 Y215.8/N 6
図版を多く使って遠藤らの事績を紹介した本。「造幣の父 遠藤謹助」(p110-129)に人物紹介あり。明治7年(1874)大蔵大丞^{だいじょう}任命後、遠藤が大蔵卿大隈重信に提出した提言書の解説あり。
- 『**月刊・松下村塾 Vol.9 吉田松陰と伊藤博文**』
月刊 松下村塾編集部編 山口産業 2005.6 Y289/Y 86/N 4
「幕末の密留学長州五傑」の章(p10)で、遠藤の事績を1ページにまとめている。



その他の資料

- 『**造幣局百年史**』 正編・資料編
大蔵省造幣局編集 大蔵省造幣局 1974-1976 R337.24/K 4
正編p110-112に、桜の通り抜けについて記述あり。
資料編の人名索引(p505)から遠藤関連の記述箇所をさがすことができる。p250-253に、明治7年(1874)に、遠藤が大隈重信に提出した提言書も掲載されている。
- 「**造幣局長遠藤謹助の履歴紹介—文久三年英国渡航五人組研究の一端として—**」(井関清)
(「山口県地方史研究」48号 p65-73 山口県地方史学会 1982.11 Y205/I 4)
遠藤の生涯、特にイギリス留学時と造幣局での様子を、史料をもとに紹介した論文。
長州ファイブの英国渡航の経緯等のほかに、大蔵省に残る記録をもとに履歴を記載。
- 『**通り抜け その歩みと桜**』
造幣局泉友会編 創元社 1996.4 627.7/M 6
p50-52に、桜の通り抜けの始まりについての記述あり。

山口県立図書館は明治維新資料の収集に努めています。

山口県立山口図書館 総合サービスグループ
TEL : 083-924-2114 (調査・相談)
FAX : 083-932-2817
ホームページ : <http://library.pref.yamaguchi.lg.jp/>

このほかにも関連資料がありますので、詳しくはお問い合わせください。

作成日 : 令和2年(2020年)3月31日